

## 「DNA多型」投稿原稿の作成について（発表者の方へ）

本書面に示す注意事項及び印刷例、並びに学会ホームページ(<http://dnapol.umin.jp/>)で公開している投稿規定を参考にして、「印刷した原稿および著者連絡先」、「原稿および著者連絡先をテキスト変換して保存したCD-R」および「著作権の委譲承諾書」を、学術集会当日に受付へ提出して下さい。

### <著者連絡先>

郵便番号・住所：

氏名・所属名：

TEL 番号・FAX 番号・E-mail アドレス：

### <原稿の様式>

演題番号と演題名(改行)

所属(改行)

氏名(改行)

所属(改行)

氏名(改行)（所属と氏名は所属毎に記載する）

(改行)

1. はじめに(改行)

(改行)

2. 材料と方法(改行)

(改行)

3. 結果(改行)

(改行)

4. 考察(改行)

(改行)

(謝辞(改行)

(改行))

文献(改行)

(改行)

英文題名(改行)

英文氏名(カンマ)(半角空白)・・・英文氏名(ピリオド) (半角空白)英文所属(カンマ)(半角空白)・・・英文所属(ピリオド) (改行)

(改行)

図の説明(改行)

表の説明

\*\*\*\*\*                      \*\*\*\*\*                      \*\*\*\*\*                      \*\*\*\*\*

上記の様式に則って作成をお願いします。

図、表はそのまま取り込みますので、鮮明なものをお願いします。

また、本文内に入れずに、別に印刷して下さい。

原稿作成上の注意事項

	注 意 事 項	例
演題番号	1 桁は全角。2 桁は半角。ピリオドは全角	1. あいうえお 12. あいうえお
所 属	正式名称で記載	久留米大学医学部法医学 法医学・人類遺伝学講座
氏 名	4 文字以下の場合：姓と名の上に全角空白を入れて て 5 文字にする 5 文字以上の場合：姓と名の上に空白を入れない	鈴木 太 鈴木 太郎 鈴木一太郎
氏名と 氏名の間	全角空白を入れる	鈴木 太郎、田中 次郎
大項目	頭の数字およびピリオドは全角	1. あいうえお
中項目	両括弧付き数字および括弧は半角	(1) あいうえお
小項目	片括弧付き数字および括弧は半角	1) あいうえお
文節の始め 文節の終わり	始め：全角空白 1 文字 終わり：改行	あいうえお
大項目間 中小項目間	大項目間：1 行あける 中小項目間：行をあけない	
文献の数字	1 桁は全角。2 桁は半角。括弧は全角	1) あいうえお 11) かきくけこ
文献の英文	半角	12) abcde
英文題名・氏名 および所属	半角	
所属が複数の 場合	英文氏名の後ろに* <sup>1</sup> （半角上付き）および 英文所属の前に* <sup>1</sup> （半角上付き）	Taro Suzuki* <sup>1</sup> * <sup>1</sup> National…Science

## 原稿印刷例

テキストに変換した際に変化した部分は、印を付けて下さい。

(以下 例文)

23. 核 rRNA 遺伝子領域を用いたアコヤガイ属における類縁関係の推定

独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所

正岡 哲治

独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所

小林 敬典

### 1. はじめに

海産二枚貝のアコヤガイは・・・分類されている。しかし、各国産アコヤガイ類の類縁関係は・・・ほとんどない。

そこで、本研究では・・・核 rRNA 遺伝子領域の塩基配列情報から・・・類縁関係を推定した。

### 2. 材料と方法

#### (1) 試料

アコヤガイは・・・産の成貝および稚貝・・・個体用いた。

#### (2) PCRの条件

テキストに変換すると下付でなくなるので黄色く塗る。

サンプルDNAは・・・用いた。

PCR反応液は、10mM Tris-HCl (pH8.3), 50mM KCl, 2mM MgCl<sub>2</sub>, 200 μM dNTP, とした。

また、PCR反応は・・・とした。テキストに変換すると文字化けするので黄色く塗る。

### 3. 結果

アコヤガイ属の・・・を決定した。

### 4. 考察

今回得られた結果と鈴木ら<sup>7)</sup>が報告した・・・と考えられる。

テキストに変換すると上付きでなくなるので黄色く塗る。

### 文献

1) Li JC: Species identification by PCR. J Forens Sci, 37: 125-137, 1992.

10) 鈴木太郎: AFLP法による遺伝子型判定. 日法医誌, 54: 220-231, 2000.

図1 rRNA 遺伝子領域を用いて作成した系統樹

表1 材料の産地